

## サッカー天皇杯全日本選手権

## J1のベカルタ仙台破る



試合終盤、追加点を狙い、足を止めず攻め込む中野誠

## 創部初のJ1「ジョイキリ」

【コアテックススタジアム仙台(仙台市泉区)で小宮山瑛生(社会学類3年、田中開(教育学類4年)サッカーの天皇杯全日本選手権第3日の21日、筑波大学はJ1のベカルタ仙台を3-2で下し「ジョイアントキリ」を遂げた。大学勢がJ1勢に勝利するのは筑波大としては初、天皇杯としては3年ぶりの4度目の快挙。筑波大は続く3戦目、J2のアビスパ福岡と7月12日に対戦し、勝てば初のベスト16に入る。

厳しい戦いが予想されていた中、先制点は筑波大だった。前半6分、自陣深くでボールを受けたMF三笠(体専2年)がドリブルでベナルティエリアまで持ち上がり、そのまま右足でシュート。キーパーの手を弾きネットを揺らした。「前を向いた時、スペースがあった。パスも考えたが、冷静にシュートを選んだ」(三笠)



三笠(左)と中野誠のガッツポーズ

仙台はこの試合が初戦。昨年度も初戦敗退の苦汁を舐めた仙台は、先制こそ許したが、FWクリスランを軸に積極的ボールを保持する。前半31分、筑波大出身のMF中野嘉大が左サイド裏から走り込んでパスを受

け、そのまま押し込んだ。その後は膠着。1-1で前半を折り返した。後半立ち上がり、仙台がボールを支配する。5分に中野嘉大が左サイドから上げたクロスはそのままネットを揺らし、1-2と逆転を許した。失点を防ぎたい筑波大は積極的にプレスに行



仙台撃破に湧く筑波大サポーターら

ず、自陣深くで守る展開に。クリスランを軸にした強固な攻勢に対し、筑波大ディフェンスは体を張った好守を続けた。GK阿部航斗(同2年)のファインセーブにも助けられ、際どい局面を何度も乗り切った。流れが変わったのは20分。ファーに入ったコーナーキックをDF小笠原佳祐(同3年)が折り返してゴール前につなぐと、FW中野誠也(同4年)がヘディングで決めた。「小笠原が競り勝ってくれ」と信じてポジションを取った(中野)。エース中野誠の同点打に会場と選手が湧いた。追加点を阻止したい仙台の意識が守りに向き、

焦りの色が見え始めた28分、仙台ディフェンスのパスの隙を突き、途中出場のMF西澤健太(同3年)がカットの好プレー。勝負がかかる場面、ラストパスを受けた三笠が魅せた。相手キーパーが右に重心を傾ける。三笠はそれを見逃さなかった。ここ一番の局面で、冷静にゴール左隅に流し込んだ。

これが決定打となり、残る20分、パワープレーに出る仙台の猛攻をしのぎきり、筑波大が3-2で仙台を下した。

昨年末の劇的な全日本選手権(インカレ)制覇からほぼ半年。筑波大は今期も好調を維持する中で、J1撃破だった。

続く3回戦は、筑波大出身の井原正巳監督が率いるアビスパ福岡と激突する。J2首位を走る福岡だが、選手に気負いはない。(仙台戦は)あくまで一つの勝利。福岡戦でも筑波の強さを見せたい(三笠)。さらなる飛躍に向け、気合は十分だ。(小宮山瑛生)

筑波大学新聞

号外

編集責任  
筑波大学新聞  
編集代表  
福原直樹

TEL:  
029(853)2040・6699  
E-mail  
shinbun@  
un.tsukuba.ac.jp  
月 刊

発行所  
筑波大学  
茨城県つくば市  
天王台1-1-1